

2020 年度決算説明会における主要な質疑応答

| 質問 | 回答 |
|---|--|
| <p>Q1 : 航空宇宙システム事業の 2021 年度業績予想は、どのような前提での計画か教えてください。</p> | <p>A1 : ● 航空宇宙事業 当社は大型機を中心とするため生産水準は依然低い状況が継続しますが、低生産レートに合わせた固定費の削減や生産効率化を進めることで増益を達成する計画です。 ● 航空エンジン事業 運航時間の回復に伴い、国内線向けの中・小型エンジンから徐々に採算が改善していきます。しかし、不具合品の改良コスト等によるアフターセールスの収益悪化等の要因があり、赤字が継続する見込みです。なお、2021 年度から新収益認識会計基準（※）を適用しており、従来の経理処理と比較して営業損益では約▲100 億円の影響を見込んでいます。 ※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第 29 号 2020 年 3 月 31 日）</p> |
| <p>Q2 : 航空宇宙システム事業の 2021 年度業績予想における新収益認識会計基準の影響額（売上高 約▲730 億円、営業利益 約▲100 億円）は、全額が航空エンジン事業に対するものですか。</p> | <p>A2 : 全額ではありませんが、ほとんどが航空エンジン事業に対する影響です。</p> |
| <p>Q3 : 車両事業について、2021 年度の収益性が大きく改善する理由を教えてください。</p> | <p>A3 : 2020 年度の大きな業績悪化要因である新型コロナウイルス感染拡大の影響が縮小するためです。</p> |
| <p>Q4 : エネルギーソリューション&マリン事業の 2021 年度業績予想について、エネルギー・環境プラント事業と船舶海洋事業に分けて詳細を教えてください。</p> | <p>A4 : ● エネルギー・環境プラント事業 2020 年度と比較して増収を見込むものの、高採算案件が少なく、進行中案件の不測の事態に備えた予備費を解消できる確度が現時点では高くないため、減益を見込んでいます。 ● 船舶海洋事業 2020 年度は 30 億円の赤字でしたが、2021 年度も操業損の発生により若干の赤字拡大を見込んでいます。</p> |
| <p>Q5 : ロボット事業の営業損益について、2020 年度実績と 2021 年度予想を教えてください。</p> | <p>A5 : 2020 年度は黒字でしたが、セグメント全体の営業利益に占める割合は非常に小さなものでした。2021 年度は、好調な半導体分野の貢献やコロナ禍で落ち込んでいたアフターサービスの活発化によって増益を見込んでいます。</p> |
| <p>Q6 : 世界的な半導体不足やコンテナ不足は 2021 年度業績にどの程度影響しますか。</p> | <p>A6 : 半導体不足によるリスクは一定程度見込まれるため、2021 年度業績予想に織り込んでいます。コンテナ不足によるリスクは、今のところ 2021 年度の事業活動に大きな影響を与えるとは考えていません。</p> |

以上